

IgA 血管炎

IgA 血管炎は、ヘンッホーシェーライン紫斑病（Henoch-Schönlein purpura）やアレルギー性紫斑病とも呼ばれていました。小児の血管炎では川崎病に次ぐ多さです。主な症状は、下肢中心の紫斑、腹痛、関節痛です。約 50%で紫斑病性腎炎を合併します。多くの場合は数週間で自然治癒しますが、激しい腹痛や腎炎の合併のために入院加療や長期間の治療が必要となることもあります。



両下腿の紫斑